

ハノーバー市

(クラインガルテン (市民農園) 視察)

平成20年2月2日 (土)

[面談者]

ボンク氏 (市職員)

ミルケ氏 (クラインガルテン代表)

[通訳]

恵子バルトカヘアー尾崎氏



○説明者 ハノーバーでは、この市民農園ということを探していただいている、何かその理由というのはいかがでしょうか。

○中井議員 クラインガルテンが大変、市民の方々にとって人気のあるものだという事をお聞きいたしまして。

○説明者 ドイツでは100万団体、ハノーバーでは2万団体あります。ハノーバーでは、100団体のそういった連合がございます。面積ですれば、1,000ヘクタールになります。それは、ハノーバー市の面積の5%になります。

ハノーバーというのは、緑の中の大都市と言われて、50%以上が緑です。クラインガルテン自身は5%です。

ドイツでは、普通は一つ一つの1戸が350から400平方メートルの大きさが普通のサイズになります。昔は、1960年ぐらいは、このあたりに800平方メートルの大きさがあったんですけども、それはもう細かくして、それを半分に切って小さくした。だから平均350から400平方メートルになります、1戸当たりが。800平方メートルというと、やっぱりちょっと大き過ぎる。だから、350から400程度が一家族にとって一番きれいに手入れするのにいい大きさです。

結構厳しい規則があります。厳しいというのももちろん例外もありますけれども、例えばこういったようなあずまやというのは、24平方メートル以内でないとだめだというような規則もあります。



○土師議員 全部で戸数は何戸あるのですか。

○説明者 ここでは302です、このクラブは。

だから、302×400平方メートルぐらいになるんです。ただ、それぞれ大きさが違うので、300平方メートルから、今のところ700のところもまだあります。前のあたりは250ということもあるし、ちょっと大きなところもまだある。だから、平均すると大体それぐらいです。

○中井議員 利用される人たちの主な目的はどんなものがありますか。

○説明者 レジャーです。普通のストレスを解消するというような。アパート住まいの人で、ガーデンを持ってない人、だから子どもたちでアパート住んで全然土いじりができないとか、そういう家族がどうしても自然に直接に触れたいという、そういう願いがあって、余暇を過ごすところになります。

市の方からいいますと、アパートが12個あれば、それに対して一つは、こういったクラインガルテン、市民の農園の1個が必ずあるような、それだけを市が、それだけのクラインガルテンを擁してなければいけないということが目的ですね。ハノーバーでは、その目標が達せています。



○土師議員 契約期間は2年などあるのでしょうか。

○説明者 期限なしです。

○中井議員 費用関係はどうなんですか。

○説明者 42セントです、1平方当たり。

年間、1平方メートル、42セントです。

○土師議員 終身ということは、新しい人がこれを借りようと思ったら、どうなるわけですか。

○説明者 今のところは、こういう農園を持とうという人の興味というのか、希望者が少なく

なっています。ということは、待ち時間が余りないということです。

○土師議員 その、理由は何でしょうか。

○説明者 今のところは、すごく高齢化が進んでいて、今まで持っていた人で、もうやりたくないという人が急にふえてしまって。



○説明者 中にお入りください。

(1 軒目のあずまや)

○説明者 中は木でつくられていて、入り口の部屋があって、そこがお台所で暖炉みたいなのがあって、ちょっと応接室と居間が中にあります。

○池田議員 この上は寝るところですか。

○説明者 その上のところが、はしごがあって、横になれるようなイメージになっています。

○中井議員 週末に来られても、1泊2日とか2泊3日というのが多いんですか。

○説明者 結構、年金生活者が多いです。だから、現役の方というのは、子どもたちと一緒に週末に来る方が、夏だったら、週末、ここで2日ほど泊まって、夏にここで朝御飯をいただくとか、そういうようなのが一番楽しい行事になります。

だから、年金で暮らしてらっしゃる方も、ほとんど1年間、ここに住んでるというイメージの人もある。もちろん夜は近くでアパートで住んでる人で、お昼間はほとんどここへ来て、明るい間はここで過ごすというようなタイプの人も結構多いですね。



○中井議員 土地は市所有だというふうにお聞きしたんですけれど。

○説明者 ハノーバー市です。先ほど申しあげました1,000ヘクタールのうち、750ヘクタールは、市のものです。そのあとは私的所有です。持ち主は教会の一つの団体とか、キリストの教会の団体とか。昔から土地をたくさん持っていた農家の方の残りの方とか、そういう方ですね。

○中井議員 ここの約302区画を利用されてる方たちがクラブをつくられてるんですか。

○説明者 ここは一つだけクラブで、そこはやっぱりクラブに入ってないといけません。

クラブ費用は、5年ごとに大きなお祭りなどもしますので、230ユーロぐらいです。だから借りてるお金以外に必要なものが、例えば道路とか中の小道とか、そこで労働力でそれを返すということもできますけれども、何にも自分でそこに奉仕をしない人は、230ユーロ、一戸について年間払うことになります。

ごみを取りにくるとか、掃除とか、クラブハウスを管理するとか、5年ごとにお祭りがある、記念事業みたいなものがある、そういうときの費用にしたりしています。

○土師議員 ハノーバーでのクラインガルテンですが、戸数は全部で何戸ありますか。

○説明者 2万戸です。

○土師議員 歴史はいかがでしょうか。

○説明者 1895年からです。

○西議員 クラブが12戸から20戸あれば、アパートが20戸あれば1戸つくらなければいけない、12世帯から20世帯に対して1戸ずつつくらなきゃいけないという法律というか条例で決まってるということですか。

○説明者 やっぱりドイツ全体でそういう目標がある、12から13世帯。アパート、家でなくて、アパートの世帯です。そうですね、やっぱり12世帯です。

○中井議員 週末、どういうふうな使い方をされているのですか。

○説明者 両親はこの近くに住んでいて、私は大学生のときにこれがフリーになったので、それを譲ってもらったものです。1993年に受け取って、自分の仕事の時間によるので、一概に言えないですけど、冬は結構多いです。夏の方が少ないですね。

私自身は庭の設計の仕事をしています。だから冬の方が時間があり、夏は忙しいので、余りここを自分で使えないです。

○西議員 ここでは、音楽聞いたり…

○説明者 絵をかきます。

○中井議員 趣味の時間で、ここを使ってるわけですね。

○説明者 自分のホービックスって、ちょっと集めた植物を集めたものがあるんです。コレクションをしています。

○土師議員 この小屋は、ハンドメイドですよ。

○説明者 お隣みたいな家だったのを自分がこれを取って1993年に自分で建てました。ここに当時、どんな感じだったのか、どういうふうにしたのかというのが、ここに記録写真があります。

○中井議員 この小屋には税金かけてるんですか。

○説明者 払わなくていいです。

○土師議員 高齢者の人に何かインセンティブがあるとか、そういうのはないのですか。

○説明者 余り関係ないです。

○池田議員 クラブに、5年ごとのお祭りとおっしゃってたけれど、それ以外に、常日ごろからスポーツとか絵とか、みんなで何かをやるという、行事がありますか。

○説明者 1年に1回は必ず、それぞれに、あずまやお祭りというのがあります。それはそれぞれのところで、大体同じところにやります。ただ、このクラブは、このクラブのできたという記念の5年の大きなお祭りが5年ごとにあります。おっしゃるように、1年に1回は必ずお祭りがあります。

10時から20時までクラブハウスというのがあって、月曜日以外はあいてて、そこにみんなが集まってきて、いろんな交流、いろんな情報を知ったり、お話ししたり、一緒に飲んだりとか、そこでいろんなつき合いというのがあります。

○土師議員 ここの野菜は、例えば何かコミュニティビジネスをつくるとか、農協はどうか、流通とか、そういうのはどうなのですか。

○説明者 規則的には、ある部分はお野菜をつくらなければならないという規則があったんですけど、それはいまだに規則としてはあるんですが、もうそれは無視されている。という

のは、1960年代ぐらいから、もうレジャーの方が多くなって、やっぱり戦争の後、みんな食糧困難だったので、必ず、こういうクライנגルテン、市民農園では、これをつくらないとだめというのもあったんですけど、だんだん変わってきています。

ともかく、この市民農園を何か職業の目的で使うということは禁止されています。だから、ここで、いわゆる喫茶店を開いたり、そういうこともしてはいけません。

○西議員 家に使うことも禁止ですか。

○説明者 郵便のアドレスはどこかほかのところにないとだめです。

昔はちょっとだめでしたが、今は小さな動物を飼ってもいいんです。ミツバチを飼ってるというところもあります。

○水谷議員 将来、こういうクライングルテンがどうなっていくのでしょうか。

○説明者 やっぱりレジャーふうの目的の方がどんどん大きくなっていくでしょう。

○土師議員 第2のハウスということですね。

○説明者 そうですね、休暇をするレジャー用という。

○池田議員 勝手なイメージですけど、それぞれの家で、それぞれの家だけが楽しんでも。

みんなを楽しむというよりも、それぞれの家単位だけで楽しんでもという雰囲気ですね。

○説明者 やっぱり小さいお隣に垣根があって、すぐ隣に顔を合わせるので、コンタクトなしに自分だけシャットアウトしてということにはできません。

○池田議員 小さな村というような感じでとらえた方がいいですね。

○説明者 それがもともとそういう目的でつくられたわけなんです。昔ほど、やっぱり工業化が進んだときに、村々に住んでいた人が、こういう工業化の進んだまちに来たときに、やっぱり故郷が恋しいとか、そういったような満たされないところを満たすための、イメージが確かにあったわけなんです。

○土師議員 環境という視点でやっている人、貢献的な思いがあるのですか。

○説明者 確かに、そういうことはあると思います。そういった目的に燃えてる人が少なくなっただけですが、そういう部分もあったと思います。

○中井議員 ハノーバー市のこういう公有地、市の土地というのは、山林も含めまして、どれほどお持ちなんですか。市民農園のため、拡大しようと思ったら使えるような土地はあるんですか。

○説明者 グリーンの地域の組分けというのは、2003年ですけども、ありますね。

十分にありますが、少なくなってきたので、ただ、今も外へお出になると、そこにも売りますというところがあるんですけども、フリーになったところがあるんで、あんまり市民農園をもっとどこかへつくろうかというような余裕はないということです。

○中井議員 よい政策をやっておられますね。

○説明者 ここを借りるとするのは、すごい安いんです。ハノーバーは、アパートも結構安いん

で、両方合わせてもそう大したことはありません。

○西議員 庭付きのアパートを借りるより、2つ借りた方が安いということですか。

○説明者 庭付きのアパートというのは、余りないですね、まちの中へ住みたければ、やっぱり庭などは望めないですね、まちの真ん中にしたら。

あんまり中に緑のついたアパートというのは本当になかなかないです。そうすると、すごく高くなる。だから、10分かかっても、ここだったら、結構余裕があるから、両方借りています。

○西議員 市としては、そういうふうに安く提供してるということは、市の財政的に問題にならないんですか。

○説明者 市民農園の特徴というのが、安いということが一番の特徴なんで、それを高くするつもりは全然ないです。規則もあるんです。それは、市民農園に対しての、ある規則というのがあって、それによって、貸し代というのが決っているんです。ドイツ全体でこれ以上取ってはいけないというのがあるんで、それ以上取れないです。

42セントといいましたが、ハノーバーって比較的高い方です。ドイツ全体では、場合によっては、1平方メートルが18セントで借りれるところがあります。その土地の上にあるもの、例えばこのあずまやとか植物なんかは借りてる人のものなんです。例えば私が、じゃあ、だれかに譲りましょうとって、権利を譲ることができる、ただ、土地使用は市のものだから売れないです。

○西議員 例えば新しくつくるときに、市民農園にせずに、ほかのものに使ったり、売却をしてしまったら、もっと高い値段で活用できる可能性がありますね。ただ、その市民農園に使うということは、損じゃないですけど、損になるという反発はないですか。

○説明者 そういう考えももちろんあります。

○西議員 それに対してどういうふうに反論しておられますか。

○説明者 やっぱり法律によって守られてるので、勝手にそれを取っちゃうということはできません。だから、もしそこをやめてしまうというは、かなり前から、やめてしまうということを広報しないとだめなわけです。だから、かなり守られているので、その土地を取っちゃって、ほかのものということにはなりにくいです。

○西議員 法律的に決まってる量よりも、例えば12軒に1軒つくらなきゃいけないとなったときに、ハノーバーとかだと、多目に多分計算でつくってあると思うんですが、法律、ルールよりも多くつくってある。それで、多くつくる場合というのは損になります。

○説明者 もちろん、そういう考えもありますね。

(2軒目のあずまや)



○中井議員 どういうふうな楽しみ方されているんですか。

○説明者 春から晩秋まで、お天気がよければ、ほとんど毎日来ています。一、二キロぐらいのところですから、自転車です。ここで台所もあるので、食事をつくろうと思えばつくれるし、ガスが入っていますので、暖房もできるんで、結構寒いときも来えています。トイレはバイオ式です、水洗でなくて。あそこの温室みたいなところでトマトをつくっています。野菜をいろいろ栽培しています。トマトやイチゴがあります。

じゃあ、お見せいたしましょう。イチゴにトマト、今、トマトは新しく植え直したところなんです。それから、スグリみたいなところとか、それから果樹の木も何本かあります。これはタマネギです。大体半分がお花と芝生です。そこにあるのがサクランボの木です。甘いサクランボ。これはブランコですね、向こうにラズベリーもあります。

○中井議員 いろいろと、多品目つくられたら楽しいのではないですか。

○説明者 私の趣味です。自分はアパートにしか住んでないので、庭がないのです。ここでは土がさわれますので、すごく楽しいです。

○中井議員 ここを利用して何年ぐらいになりますか。

○説明者 40年間です。その頃は子どもたちが、まだ小さくて、今はもう孫たちが来るようになって、住まいも自分で建てました。

○中井議員 失礼ですが、年金生活ですか。

○説明者 今はもう年金生活しています。

○池田議員 毎日が楽しいですか。

○説明者 私の大きな喜びです。私たちのレジャーになりますから。